

【県立埋蔵文化財センター ワクワク考古楽学習指導案】

令和3年11月17～19日
 県立埋蔵文化財センター
 隈元・山下

(1) 目標

発掘調査成果を中心に、遺跡や文化財、資料などを活用して、歴史を学ぶ意味を考えるとともに、自分たちの生活の歴史的背景、地域の歴史や先人たちの暮らしについて理解と関心を深めるようにする。

(2) 実際

過程	子どもたちの活動	時間	センター職員指導及び支援内容	準備・留意点
導入	1 埋蔵文化財センターの仕事を紹介する。	10	○ パワーポイントで、埋蔵文化財センターの仕事内容を簡潔に説明する。 ○ 本年度事業の廃寺についての説明を簡潔に行う。	○ パワーポイント
	2 本時の目標をつかむ。 わたしたちの地域にある、遺跡や文化財について知ろう。			
展開	3 鹿児島を代表する上野原遺跡について知る。	15	○ パワーポイントを使い、上野原遺跡の紹介をする。 ○ 理科で学習する地層の学習とリンクさせ、鹿児島は火山のはたらきでできた地層が多いことや、始良カルデラや鬼界カルデラの噴火等を紹介する。	○ 縄文時代早期の土器（レプリカ）・石器等（埋文キット）ら
	4 アカホヤ火山灰やそれに伴う災害の様子を知り、現在の防災にも繋がることを意識する。			
展開	5 校内・校区内にある遺跡について理解を深める。 ① 小学校近辺の遺跡について	15	○ 学校の近くには、遺跡があり、昔から人々の暮らしがあったことを知る。 ○ 立切遺跡・三角山遺跡の紹介をする。 ○ 出土遺物に実際に触れ、感触や重さ、加工の跡などを体感する。	○ 周辺遺跡地図 ○ 年表 ○ 埋文キット
	② 中種子町内の重要遺跡について紹介する。			
	③ 遺物に触れる。			
終末	6 本時のまとめをする。 自分たちの地域の歴史的な背景や先人達の暮らしについて考える。	5	○ 中種子町は、3年以上前から、自分たちの地域には人々が暮らしていて、連綿と人々の生活が営まれてきたことを知る。	

(3) 評価

- ・ 地域にある文化財や資料から、歴史を学ぶ意味を考えるとともに、自分たちの生活の歴史的背景、地域の歴史や先人たちの暮らしについて理解できたか。